

Title	福岡正夫名誉教授著作目録
Sub Title	A bibliography of the writings of Prof. Masao Fukuoka
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1990
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.82, No. 特別号-I (1990. 3) ,p.273- 283
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	福岡正夫教授退任記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19900301-0273

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福岡正夫名誉教授著作目録

1. 著 書

- 『経済原論』世界書院（経済学全集1 千種義人・大熊一郎・富田重夫と共著 第5, 7, 11, 12, 13, 21章を担当）, 1964年
- 『近代経済学の理論構造』筑摩書房（経済学全集5 安井琢磨・熊谷尚夫と共著 第II部を担当, 第2版では第IV部第2章をも担当）, 1974年（初版）, 1977年（第2版）
- 『経済学の考え方』泉文堂, 1978年
- 『一般均衡理論』創文社, 1979年
- 『ケインズと現代』『税務経理協会』（早坂忠・根岸隆と共著）1983年
- 『均衡理論の研究』創文社, 1985年
- 『ゼミナール経済学入門』日本経済新聞社, 1986年
- 『経済学原論』比峰出版社（『ゼミナール経済学入門』韓国語版 丁炳然 解訳）1987年

2. 編 著

- 『経済学』有斐閣（有斐閣双書 荒憲治郎と共編）, 1965年
- 『経済学の潮流』日本評論社, 1974年
- 『経済学2 厚生経済学』有斐閣（有斐閣双書）, 1975年
- 『経済辞典』講談社（荒憲治郎・内田忠夫と共編）, 1980年

3. 訳 書

- ランゲ『価格伸縮性と雇傭』東洋経済新報社（安井琢磨と共訳）, 1953年
- ピグウ『厚生経済学』東洋経済新報社（永田清監訳 気賀健三・千種義人・鈴木諒一・大熊一郎と共訳）, 1953年
- ドーフマン＝サミュエルソン＝ソロー『線型計画と経済分析』I・II, 岩波書店（安井琢磨・渡部経彦・小山昭雄と共訳）, I 1958年, II 1959年
- アレン『数理経済学』紀伊国屋書店（安井琢磨・木村健康監訳, 第10章・第19章を担当）, 1959年
- ソロー『資本理論と経済成長』竹内書店（川又邦雄と共訳）, 1965年
- ソロー『資本・成長・技術進歩』竹内書店（神谷傳造・川又邦雄と共訳）, 1970年
- ヒックス『資本と成長』岩波書店（安井琢磨と共訳）, 1970年
- ソロー『成長理論』岩波書店, 1971年
- サミュエルソン『経済学と現代』日本経済新聞社, 1972年
- ジャッフェ『『限界革命』におけるワルラスの役割』（浜田裕一郎と共訳 岡田純一・早坂忠 編『経済学と限界革命』日本経済新聞社, 所収）, 1975年
- アロー＝ハーン『一般均衡分析』岩波書店（川又邦雄と共訳）, 1976年
- ブローグ『ケンブリッジ革命』東洋経済新報社（松浦保と共訳）, 1977年
- ジャッフェ『ワルラス経済学の誕生』日本経済新聞社（安井琢磨と共編訳）, 1977年

サムエルソン「経済学者と思想の歴史」(『サムエルソン経済学体系』第9巻, 勁草書房, 所収), 1979年
サムエルソン「限界効用の終焉: ベルナルデリ博士の論文に関する覚書」(瀬古美喜と共訳『サムエルソン経済学体系』第2巻, 勁草書房), 1979年
サムエルソン『経済学と現代』新版, 日本経済新聞社, 1979年
ソロー『資本理論と収益率』新装改訂, 竹内書店(川又邦雄と共訳), 1988年
ソロー『資本・成長・技術進歩』増補改訂(神谷傳造・川又邦雄と共訳), 1988年

4. 専門論文

「価格体系の変化の法則に関する覚書」『三田学会雑誌』第42巻第1号, 1949年
「比較静学——極値条件と安定条件——」『三田学会雑誌』第42巻第5・6号, 1949年
「比較静学と安定条件」『季刊理論経済学』第1巻第1号, 1950年
「ヨーゼフ・A・シュンペーター——革新の経済学——」『三田学会雑誌』第43巻第1号, 1950年
「国民所得評価論に於けるヒックスとサミュエルソン」『金融経済』第9号, 1951年
「ピグウ教授の国民所得評価論」『三田学会雑誌』第44巻第6号, 1951年
「消費者均衡理論の基礎をめぐって; 展望——積分可能条件についての一註解——」『季刊理論経済学』第2巻第4号, 1951年
「選択の理論」(未発表), 1951年
「シュンペーターとケインズ」『季刊理論経済学』第3巻第1号, 1952年
“A Note on Convergence in Linear Programming Problems” *Cowles Commission Discussion Paper*, 1954年
“Solution of a Resource Allocation Problem by Differential Equations” (Unpublished), 1954年
“Full Employment and Constant Coefficients of Production” *Quarterly Journal of Economics*, 1955年
「投入産出モデルと市場機構」『季刊理論経済学』第6巻第1・2号, 1955年
「投入産出の不等式体系」『金融経済』第33号, 1955年
「動学的投入産出過程の最適経路について」『経済研究』第6巻第3号, 1955年
「投入産出分析(一)——基礎理論——」『三田学会雑誌』第48巻第6号, 1955年
「投入産出分析(二)——逐次解法その他——」『三田学会雑誌』第48巻第7号, 1955年
「投入産出分析(三)——動学的レオンチェフ体系——」『三田学会雑誌』第48巻第8号, 1955年
「投入産出分析の基礎理論」『経済評論』第5巻第5号, 1956年
「線型計画論——Simplex Method——」『三田学会雑誌』第49巻第1号, 1956年
「線型計画論——双対性定理——」『三田学会雑誌』第49巻第3号, 1956年
「線型計画論——遊戯論との関係——」『三田学会雑誌』第49巻第6号, 1956年
「遊戯問題の若干の特殊な解法について」『三田学会雑誌』第49巻第5号, 1956年
「ヒックス教授の需要理論」『経済研究』第8巻第1号, 1957年
「カッセル一般均衡体系の再検討」『季刊理論経済学』第9巻第1・2号(小山昭雄と共著), 1959年
「均衡点存在問題の一考察」『経済学論集』第26巻第3・4号, 1959年
「再生産表式と均衡成長——マルクス, ハロッド, レオンチェフを結ぶもの——」(森嶋通夫・篠原三代平・内田忠夫編『新しい経済分析』創文社, 所収), 1960年
「動学的レオンチェフ体系における双対安定の非両立性について」『経済研究』第11巻第3号, 1960年
「インフレーション理論の展望」『三田学会雑誌』第54巻第12号, 1961年
「カルドア氏の成長理論」『三田学会雑誌』第55巻第8号, 1962年
「国際収支と景気循環モデル」小宮隆太郎編『戦後日本の経済成長』岩波書店, 所収, 1963年
「線型経済学と伝統理論」安井琢磨・熊谷尚夫・西山千明編『近代経済学講義』創文社, 所収, 1964年

- “The Stability Conditions and the Speeds of Adjustments; A Critical Note”『季刊理論経済学』第14巻第2号（神谷傳造と共著），1964年
- “The Neo-Classical Theorem and the Two-Sector Model of Economic Growth”『季刊理論経済学』第16巻第1号（川又邦雄と共著），1965年
- 「最適成長理論：展望」『季刊理論経済学』第16巻第2号，1966年
- 「経済学における理論的方法と歴史的方法」慶應義塾経済学会編『経済学方法論の諸問題』東洋経済新報社，所収，1967年
- 「消費者均衡の純粹理論」慶應義塾経済学会『経済学年報』第12号，1968年
- 「生産者均衡の純粹理論」『三田学会雑誌』第62巻第9号，1969年
- “Monetary Growth á la Keynes” *Keio Economic Studies*, Vol. 1, No. 1, 1968年
- 「ケインズと現代経済理論」小泉明・宮沢健一編『ケインズ一般理論研究』Ⅲ所収，筑摩書房，1970年
- 「競争均衡の存在」慶應義塾経済学会『経済学年報』第14号，1970年
- 「価格調節関数と存在定理——一つの注解——」『三田学会雑誌』第64巻第4号（宇佐美泰生と共著），1971年
- 「パレート最適と競争均衡」『三田学会雑誌』第64巻第6号，1971年
- 「コアと競争均衡」『三田学会雑誌』第64巻第7号，1971年
- 「価格決定における需要の役割」『三田学会雑誌』第64巻第11号，1971年
- 「コアによる競争均衡の近似について」『三田学会雑誌』第65巻第7号，1972年
- 「市場均衡の安定性Ⅰ——序論的考察——」『三田学会雑誌』第66巻第2・3号，1973年
- 「ケインズ経済学のミクロ理論的基礎：展望と評価」『季刊理論経済学』第25巻第1号，1974年
- 「柴田博士のカッセル批判をめぐって」都留重人・杉原二郎編『経済学の現代的課題』ミネルヴァ書房，所収，1974年
- 「市場均衡の安定性Ⅱ——粗大替財体系と大域的安定性——」『三田学会雑誌』第68巻第1・2号，1975年
- 「市場均衡の安定性Ⅲ——粗大替財体系と局所的安定性——」『三田学会雑誌』第68巻第6号，1975年
- 「市場均衡の安定性Ⅳ——非模索過程の安定分析——」『三田学会雑誌』第69巻第1号，1976年
- 「均衡体系の変化の法則」『三田学会雑誌』第69巻第2・3号，1976年
- 「効用理論史のなかのワルラス——『要論』公刊百年を記念して——」（丸山徹と共著）『三田学会雑誌』第69巻第5号，1976年
- 「最適成長理論展望」『セミナー経済教室13 近代経済学』日本評論社（『季刊理論経済学』1966年3月号所載論文の再録），1976年
- 「比較静学と定性経済学Ⅰ」『三田学会雑誌』第69巻第7号，1976年
- 「比較静学と定性経済学Ⅱ」『三田学会雑誌』第70巻第1号，1977年
- 「存在問題の再考察」『三田学会雑誌』第70巻第2号（千種義人教授退任記念特集号），1977年
- 「均衡理論の進路」『季刊理論経済学』第28巻第1号（1976年10月30日関西大学における1976年度理論・計量経済学会会長講演），1977年
- 「一般均衡理論」根岸隆編『社会科学への招待 経済学理論篇』日本評論社，所収，1977年
- 「マクロ分析とミクロ分析」『経済学大辞典』東洋経済新報社，1980年
- 「非ワルラス的交換過程と最適配分Ⅰ」『三田学会雑誌』第73巻第5号，1980年
- 「非ワルラス的交換過程と最適配分Ⅱ」『三田学会雑誌』第74巻第2号，1981年
- 「交換媒体としての貨幣と取引過程の分権化」『三田学会雑誌』第74巻第3号，1981年
- 「分権的信息ならびに物々交換制度の下における均衡配分の達成不可能性定理について」『三田学会雑誌』第74巻第5号，1981年
- 「フランシス・Y・エッジワース——『数理精神科学』公刊百年を記念して——」『三田学会雑誌』第75巻第1号，1982年

「均衡配分の達成不可能性定理——改訂と拡充——」『三田学会雑誌』第75巻第4号（三浦礼と共著），1982年
「ケインズと現代経済学」『三田学会雑誌』第75巻第5号（第1回経済学会大会講演1982年6月19日の記録），
1982年
「ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ」『三田学会雑誌』第76巻第1号，1983年
「レオン・ワルラス——生誕150年に因んで——」『三田学会雑誌』第78巻第4号，1985年
「貨幣と重複世代モデル」『三田学会雑誌』第80巻第1号（須田伸一と共著），1987年
「貨幣重複世代モデルにおける競争均衡の存在について」『三田学会雑誌』第80巻第2号（須田伸一と共著），
1987年
「貨幣経済における一時的均衡」『三田学会雑誌』第81巻第1号，1988年
「貨幣経済における一時的均衡：補完的分析」『三田学会雑誌』第81巻第2号，1988年
「貨幣の中立性」『三田学会雑誌』第81巻第3号，1988年

5. 解説論文

「ランゲ：セイの法則と一般均衡理論」『三田学会雑誌』第41巻第5号，1948年
「近代価値理論の展望」『三田学会雑誌』第41巻第10号，1948年
「経済科学の客観性」『人文』第3巻第2号，1949年
「現代経済学における数学の学び方」『三色旗』第24号，1950年
「新刊のアメリカ入門経済学叢書より：本叢書について」『三田学会雑誌』第45巻第3号，1952年
「メツラー：レオンチェフの投入産出模型における租税と補助金」『三田学会雑誌』第45巻第11号，1952年
「アメリカ経済学界の一動向」『経済評論』第1巻第11号，1952年
「現代経済学のフロンティア」『三色旗』第113号，1957年
「均衡点の存在定理——最近の理論経済学界の一動向——」『三田学会雑誌』第50巻第5号，1957年
「一般均衡分析」『経済セミナー』臨時増刊「現代経済理論入門」特集号，1958年
「レオンチェフ教授の経済学」『世界経済』復刊第36号，1959年
「経済学と数学 第1講 数学の効用」『経済セミナー』No. 37，1959年
「経済学と数学 第2講 条件付最大問題〔I〕」『経済セミナー』No. 38，1959年
「経済学と数学 第3講 条件付最大問題〔II〕」『経済セミナー』No. 39，1960年
「経済学と数学 第4講 条件付最大問題〔III〕」『経済セミナー』No. 40，1960年
「経済学と数学 第5講 安定条件〔I〕」『経済セミナー』No. 41，1960年
「経済学と数学 第6講 安定条件〔II〕」『経済セミナー』No. 42，1960年
「経済学と今日の問題」『三田評論』通巻第598号，1961年
「独禁政策の理論的基準」『東洋経済』新年号，1962年
「現代経済理論の潮流」『経済セミナー』No. 69，1962年
「現代成長理論の概観」慶應義塾経済学会『経済学年報』第6号，1962年
「現代成長理論の概観」『国際通信に関する諸問題』国際電信電話株式会社，1962年
「経済成長と技術進歩」『国際通信に関する諸問題』国際電信電話株式会社，1963年
「経済主体の行動」大石泰彦『現代経済学入門』有斐閣双書所収，1963年
「多部門成長理論」『国際通信に関する諸問題』国際電信電話株式会社，1964年
「技術進歩と経済理論」『三田評論』通巻第628号，1964年
「経済学の方法」荒憲治郎・福岡正夫編『経済学』有斐閣所収，1965年
「経済の基本問題」荒憲治郎・福岡正夫編『経済学』有斐閣所収，1965年
「価格機構と経済厚生」篠原三代平・林栄夫・宮峰義一編，近代経済学講座〔1〕基礎理論編『価格の理論』
有斐閣所収，1967年

- 「経済成長理論の発展」安井琢磨編『ケインズ以後の経済学』日本経済新聞社所収，1967年
- 「ジョン・ロビンソンの世界」『東洋経済』創刊記念号，1967年
- 「現代経済学の潮流」『三田評論』通券第684号，1969年
- 「解題」ロビンソン『価値論の再検討』慶應義塾大学小泉記念講座選書，1969年
- 「現代経済学の潮流」『福沢選書』2，1970年
- 「一般均衡理論の発展」熊谷尚夫・大石泰彦編『近代経済学』(3)有斐閣双書所収，1970年
- 「サムエルソン経済学——その現代理論への貢献——」『経済セミナー』，1970年
- 「解題」ハロッド『経済成長の理論と政策』慶應義塾大学小泉記念講座選書5，1970年
- 「ケインズ理論とその背景」『三田評論』通巻719号〔福岡正夫編『経済学の潮流』日本評論社（1974年）に再録〕，1970年
- 「一般理論への道」『学燈』1972年
- 「ヒックス教授の功績——その一般均衡理論への貢献」『経済セミナー』No. 210，1972年
- 「ヒックス，アロー両教授の貢献」『書窓』No. 12，1973年
- 「一般均衡経済学」中山伊知郎・荒憲治郎・宮沢健一編『原典による経済学の歩み』講談社所収，1974年
- 「ミクロ経済学」日本経済学会編『経済学の動向（上）』東洋経済新報社，1974年
- 「経済学を築いた人々——J・R・ヒックス——」筑摩書房『近代経済学の理論構造』付録，経済学全集月報No. 27，1974年
- 「サムエルソンと現代経済学」NHK大学講座経済学2『現代経済学の潮流』NHKサービスセンター，1975年
- 「序 本書のプログラム」『経済学2 厚生経済学』有斐閣双書，1975年
- 「J・R・ヒックス——そのノーベル賞受賞にさいして——」『セミナー経済学教室12 現代の経済学 理論と思想』日本評論社（『経済セミナー』1972年12月号所載論文の再録），1976年
- 「小泉信三博士と理論経済学」『三田評論』通巻第762号，特集・小泉信三博士死後十年・人とその学問，1976年
- 「「ケインズ革命」の意味」玉野井芳郎・柏崎利之輔編『近代経済学の系譜 その史的再検討』日本経済新聞社所収，1976年
- 「邦訳される「ケインズ全集」」『毎日新聞』1月17日，1977年
- 「サミュエルソン——新古典派総合——」気賀健三・千種義人編著『現代経済学の思潮』秀潤社，1977年
- 「推薦のことば」ドブリュー『価値の理論』丸山徹訳，東洋経済新報社，1977年
- 「ソロー」大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典』岩波書店，1965年（第1版），1979年（第2版）
- 「現代経済学」荒憲治郎・内田忠夫・福岡正夫編『経済辞典』講談社所収，1980年
- 「あとがき」『地球社会への展望——慶應国際シンポジウム——』日本生産性本部，1980年
- 「ケインズ経済学の現局面」『経済セミナー』No. 316，1981年
- 「巻頭言——経済学を見る眼——」『日本経済研究センター会報』第406号，1981年
- 「経済学の最近の動向（上）」『慶應キャンパス』5月25日，1982年
- 「経済学の最近の動向（下）」『慶應キャンパス』6月20日，1982年
- 「現代経済学の諸潮流——ケインズ派批判の虚実——」『日本経済新聞』10月23日，1982年
- 「経済学の現在(1)——時代のはざまとしての現在——」『三田理財クラブ125』第1巻第1号，1983年
- 「経済学の現在(2)——消費者選好の規準をめぐって——」『三田理財クラブ125』第1巻第2号，1983年
- 「経済学の現在(3)——価格現象の意義——」『三田理財クラブ125』第1巻第3号，1983年
- 「経済学の現在(4)——自由放任と最適配分——」『三田理財クラブ125』第1巻第4号，1983年
- 「経済学の現在(5)——均衡と不均衡——」『三田理財クラブ125』第1巻第5号，1983年
- 「経済学の現在(6)——貨幣の役割Ⅰ——」『三田理財クラブ125』第1巻第6号，1983年
- 「ジョン・メイナード・ケインズ——生誕百年にちなんで——」『三田学会雑誌』第76巻第4号，1983年

「ノーベル賞受賞のドブルー教授」『日本経済新聞』11月5日, 1983年
「G・ドブルー教授——人と業績——」『エコノミスト』11月8日, 1983年
「レオン・ワルラス生誕150年」『日本経済新聞』12月17日, 1984年
「カルドア教授の業績をしのぶ」『日本経済新聞』11月11日, 1986年
「カルドア」『ブリタニカ国際年鑑』TBSブリタニカ年鑑, 1987年
「カントロビッチ」『ブリタニカ国際年鑑』TBSブリタニカ年鑑, 1987年
「社会的厚生関数論争——『やさしい経済学』——」『日本経済新聞』6月17・18・19・20・22・23日, 1987年
「ケインズからいま何を学ぶべきか」『経済セミナー』No. 393, 1987年
「ノーベル賞のソロー教授」『日本経済新聞』10月31日, 1987年
「ノーベル経済学賞ロバート・ソローの業績」『信濃毎日新聞』10月25日, 1987年
「経済学賞 ロバート・M・ソロー氏」『中日新聞』10月27日（前記と同一内容）, 1987年
「ソローの業績」『山形新聞』10月27日（前記と同一内容）, 1987年
「ロバート・ソローの業績」『京都新聞』10月28日（前記と同一内容）, 1987年
「ノーベル経済学賞にソロー教授」『エコノミスト』11月10日, 1987年
「政治的景気循環——『やさしい経済学』——」『日本経済新聞』10月18・19・20・21・22・24日, 1988年
「追悼・ジョン・ヒックス」『経セミ』No. 415, 1989年

6. 書 評

「ロイ・ハロッド『動態経済学へ』」『経済評論』第5巻第2号, 1950年
「J・R・ヒックス『景気循環論』」『三田学会雑誌』第44巻第1号, 1951年
「A・P・ラーナー『雇傭の経済学』」『三田学会雑誌』第45巻第3号, 1952年
「ロイ・ハロッド『景気循環論』」『経済評論』第4巻第10号, 1955年
「ロビンソン『資本蓄積論』」『季刊理論経済学』第8巻第1・2号, 1957年
「古谷弘『現代経済学』」『日本読書新聞』9月16日, 1957年
「熊谷尚夫『資本主義経済と雇傭』」『経済評論』第6巻第12号, 1957年
「J・R・ヒックス著 早坂忠・村上泰亮訳『需要理論』」『日本読書新聞』5月26日, 1958年
「ドーフマン・サミュエルソン・ソロー『線型計画と経済分析』」『東洋経済新報』第2834号, 1958年
「シュンペーター 東畑精一訳『経済分析の歴史』」『三田学会雑誌』第53巻第6号, 1960年
「Arrow J.K. and M. Hoffenberg *A Time Series Analysis of Interindustry Demands*『季刊理論経済学』第11巻第1号, 1960年
「ジョン・ロビンソン『経済分析の演習』」『学鑑』, 1961年
「ジョン・ロビンソン『経済成長論文集』」『学鑑』, 1962年
「ヘンダーソン・クォント, 小宮隆太郎訳『現代経済学』——価格分析の理論——」『三田学会雑誌』第55巻第1号, 1962年
「筑井甚吉・村上泰亮 *Turnpike Optimality in Input-Output Systemes-Theory and Application for Planning* (『投入産出体系における ターンパイク最適性——理論と経済計画への応用——) North-Holland」
『日本経済新聞』11月3日, 1980年
「金本良嗣 *Theory of Urban Externality* (『都市の外部性の経済理論』) North-Holland」『日本経済新聞』
11月3日, 1981年
「岩井克人 *Disequilibrium Dynamics* (『不均衡動学』) Yale University Press」『日本経済新聞』11月3日,
1982年
「レイヤード・ウォルターズ 荒憲治郎監訳『ミクロ経済学——応用と演習』——」『創文』通巻第228号, 1983
年

- 「熊谷尚夫『経済原論』『経済セミナー』No. 346, 1983年
「本間正明『租税の経済理論』——一般均衡の新分野開く——, 『日本経済新聞』11月3日, 1983年
「塩野谷祐一『価値理念の構造』『日本経済新聞』11月3日, 1985年
「サー・ジョン・ヒックス教授に乾杯」『経済学新刊案内』オックスフォード大学出版局, 1986年
「伊藤隆敏『不均衡の経済分析』『日本経済新聞』11月3日, 1986年
「荒憲治郎『資本理論の研究』『経済研究』第39巻第2号, 1987年
「ザ・ニュー・バルグレイブ」『学鑑』, 1987年
「猪木武徳『経済思想』『日本経済新聞』11月3日, 1987年
「伊藤元重『入門経済学』『経済セミナー』No. 400, 1988年
「ロバート・スキデルスキー, 宮崎義一監訳古屋隆訳『ジョン・メイナード・ケインズ』I ——裏ざられた期待
1883—1920年——」1988年

7. 随筆

- 「ハーヴァードの経済学者」『三田評論』通巻第567号, 1955年
「随想——巻頭言に代えて——, 『エコノメッカ』No. 1, 福岡研究会, 1958年
「ウェーバーの教え」『エコノメッカ』No. 2, 福岡研究会, 1959年
「ヒックス教授会見記」『エコノメッカ』No. 3, 福岡研究会, 1960年
「奄美大島紀行」『エコノメッカ』No. 4, 福岡研究会, 1961年
「白馬日誌」『エコノメッカ』No. 5, 福岡研究会, 1962年
「北海道の休日」『エコノメッカ』No. 6, 福岡研究会, 1963年
「巻頭言」『エコノメッカ』No. 7, 福岡研究会, 1964年
「授業科問題所感」『エコノメッカ』No. 8, 福岡研究会, 1965年
「海外通信イギリスより」『三田評論』通巻第656号, 1967年
「留学雑記」『経済評論』, 1967年
「ケンブリッジ寸描」『三田評論』通巻第665号, 1967年
「親愛なるデーヴィッド」『三田評論』通巻第678号, 1969年
「カルドア教授を迎えて」『慶應義塾大学報』通巻第8号, 1967年
「学園紛争所感——ノンポリ学生よ, 団結せよ——」『慶應義塾大学報』通巻第17号, 1969年
「滞濠4カ月——キャンベラの印象——」『三田評論』通巻第691号, 1970年
「三田フォーラム——業務審査も不可能ではない——」『三田評論』通巻第696号, 1970年
「紛争から学ぶもの」『慶應義塾大学報』通巻第28号, 1970年
「強靱な知的営為の所産」『三田評論』通巻第709号(小檜山・高瀬・藤岡著『カラー・日本の蝶』, 評), 1971年
「サミュエルソン教授来塾」『慶應義塾大学報』通巻第35号(八角塔「感銘をよんだ記念講演」), 1971年
「サミュエルソン教授との5日間」『三田評論』通巻第710号, 1971年
「経済学と現代」『慶應義塾大学報』通巻第38号(八角塔「小泉信三記念講座」について), 1972年
「The Mystery of John Maynard Keynes」『エコノメッカ』No. 9, 福岡研究会, 1972年
「偶然と必然」『エコノメッカ』No. 10, 福岡研究会, 1973年
「自然保護ということ」『三色旗』通巻第298号, 1973年
「留学時代の友人」『日本経済新聞』(11月6日朝刊, 交遊抄), 1973年
「現代経済学雑感——『経済学の潮流』刊行によせて——」『慶應義塾大学報』通巻第51号, 1974年
「随想・書斎の内と外一蝶」『三田評論』通巻第740号, 1974年
「新著余瀝 経済学の潮流」『三田評論』通巻第741号, 1974年
「大学各誉博士授与——塾員のタイ国蔵相——」『慶應義塾大学報科』通巻第54号(八角塔), 1974年

「サミュエルソン教授とのふれあい」『エコノメッカ』No. 11, 福岡研究会, 1974年
「歴史はくり返す」『三色旗』通巻第325号, 1975年
「レポートのみによる成績評価は疑問——他大学の試験紛争を考える——」『慶應義塾大学報』通巻第57号,
1975年
「わが学部を描く私の青写真」『三田評論』通巻第749号, 1975年
「『日本産蝶類大図鑑』を出版する藤岡知夫君」『塾』通巻第72号(窓), 1975年
「採集苦心談」銀座和光「日本の蝶展」パンフレット所収, 1975年
「安井琢磨先生との出会い」『エコノメッカ』No. 12, 福岡研究会, 1976年
「小泉信三賞選評——群を抜いた島君の作品——」『三田評論』通巻第777号, 1978年
「学際的研究への志向」『慶應義塾大学報』通巻第88号, 1978年
「ワグネル渡欧公演」『慶應義塾大学報』通巻第93号(八角塔), 1978年
「蝶のすすめ」『仔馬』第29巻第2号, 1977年
「ジョン・ロビンソン女史と私」『エコノメッカ』No. 13, 福岡研究会, 1978年
「小泉信三賞選評——素直さへの評価——」『三田評論』通巻第788号, 1979年
「日本経済の現状と進路」『三田ジャーナル』通巻第64号, 1979年
『一般均衡理論』が出来るまで——その序文下書きから——」『エコノメッカ』No. 14, 福岡研究会, 1979年
「日本経済を考える」『東京芝ロータリークラブ週報』第11巻第43号通巻492号, 1979年
「新著余瀝」『創文』通巻第187号, 1979年
「レイオンヒューヴッド教授会見記」『エコノメッカ』No. 15, 福岡研究会, 1979年
「理工学部の開設について」『慶應義塾大学報』通巻第103号, 1979年
「受賞のことば」『日本経済研究センター会報』通巻第355号, 1979年
「経済学と古典」『泉』通巻第26号, 1979年
「小泉信三賞選評——際輝いた逸品——」『三田評論』通巻第799号, 1980年
「55年度義塾派遣留学生——常盤政治君他——」『慶應義塾大学報』通巻第110号, 1980年
「事例発表IV 大学教育の充実について」『昭和54年度第2回私立大学の充実に関する研修会報告書』私学研修
福祉会, 1980年
「入試雑感」『東京芝ロータリークラブ週報』第12巻第36号, 1980年
「一般教育カリキュラムの改編——ハーバード大学の場合——」『塾』第18巻, 第1号, 1980年
「経済学者の殺人」『エコノメッカ』No. 16, 福岡研究会, 1980年
「創文社と私」『創文』200号記念特集号, 1980年
「現代経済学の混迷」『経済学部ゼミナール通信』第4巻第3号, 1980年
「わが趣味を語る(1)——蝶のこと——(上)」『塾友』通巻第286号, 1981年
「わが趣味を語る(2)——蝶のこと——(下)」『塾友』通巻第287号, 1981年
「注目を惹く男女比率——小泉信三賞選評——」『三田評論』通巻第810号, 1981年
「ゼミ生誕二十五周年に寄せて」『エコノメッカ』No. 17, 福岡研究会, 1981年
「高橋誠一郎先生の思い出」『エコノメッカ』No. 17, 福岡研究会, 1981年
「わが趣味を語る(3)——推理小説をめぐる——(上)」『塾友』通巻第288号, 1981年
「わが趣味を語る(4)——推理小説をめぐる——(下)」『塾友』通巻第289号, 1981年
「わが趣味を語る(5)——クラシック音楽と私——(上)」『塾友』通巻第291号, 1981年
「わが趣味を語る(6)——クラシック音楽と私——(下)」『塾友』通巻第292号, 1981年
「近況あれこれ」『MRK 文集』, 1981年
「高橋誠一郎先生を悼んで」『慶應義塾生新聞』第144号, 1982年
「ワグネルの栄光の夕べ」『三田評論』通巻第824号, 1982年

「小泉信三賞選評——屈託なさへの好感——」『三田評論』通巻第821号，1982年
「「瑟」は“ひつ”か“しつ”か」『三田評論』追悼高橋誠一郎特集号，1982年
「性の深層意識——ローレンス『恋する女たち』——」『経済セミナー』No. 332—私の書架から—，1982年
「冬のザルツブルグ」『MRK 文集』，1982年
「第7回小泉信三賞選評——心強い水準の高さ——」『三田評論』通巻第832号，1983年
「マルクスとの出会い」『エコノメッカ』No. 18，福岡研究会，1983年
「マルクス没後百年」『泉』No. 40（創刊十周年記念——小泉信三特集号——），1983年
「マルクス経済学と私(1)」『慶應キャンパス』6月5日，1983年
「マルクス経済学と私(2)」『慶應キャンパス』7月20日，1983年
「マルクス経済学と私(3)」『慶應キャンパス』11月20日，1983年
「偶感 大学生生活と音楽」『MRK 文集』，1983年
「新春随想 雑感 大学と音楽」『塾友』通巻第314号，1984年
「小泉信三賞選評——小論文とは何か——」『三田評論』通巻第843号，1984年
「恩師」『エコノメッカ』No. 19，福岡研究会，1984年
「私の余暇時間“蝶の世界の謎解きに取り憑かれ”」『週刊東洋経済』臨時増刊経済白書特集，1984年
「私の夏休み——著作執筆と蝶の採集——」『塾友』通巻第321号，1984年
「経済における専門教育とその問題点」『大学における専門教育の問題点——専門教育研究委員会中間報告——』
大学基準協会，1985年
「ブタベストあれこれ」『エコノメッカ』No. 20，福岡研究会，1985年
「ワグネルの旅——ウィーンとブタベスト——」『三田評論』通巻第806号，1985年
「ワグネルのヨーロッパ演奏旅行」『塾友』通巻第329号，1985年
「小泉信三先生と私」『慶應キャンパス』4月5日，1986年
「小泉信三先生と私」『エコノメッカ』No. 21，福岡研究会，1986年
「『アダム・スミス，マルサス，リカアドオ』との出会い」—「私と一冊の本（社会科学）」『三色旗』第458号，
1986年
「創立五十年を祝す」『三田レコード鑑賞会創立50周年記念誌』，1986年
「自主的勉学を目指せ」—「拜啓 新入生諸君」『塾風』，1987年
「反ポパー主義の陥穽」『エコノメッカ』No. 22，福岡研究会，1987年
「右へ放りな——今に甘んじない学生生活を——」『Tetra Press』October，1987年
「20世紀に私が学んだこと」『Foresight』21，慶應義塾大学第三文明研究会，1988年
「ケインズの伝記」『エコノメッカ』No. 23，福岡研究会，1988年
「経済学の混迷？」『三色旗』第498号，1989年
「蝶との付き合い」『大学時報』日本私立大学連盟，1989年

8. 対談・座談会

「座談会アメリカの経済学会」『季刊理論経済学』第4巻第3・4号（安井琢磨・古谷弘・市村真一と），1953年
「対談 近代経済学はどうあるべきか」『経済セミナー』No. 25（安井琢磨と），1958年
「座談会 白書におけるものの考え方」『経済セミナー』臨時増刊 No. 34（内田忠夫・大熊一郎・嘉治元郎・小
宮隆太郎と），1959年
「座談会 中山報告をめぐって」『季刊理論経済学』第10巻第1・2号（久保田明光・山田雄三・中山伊知郎・
荒憲治郎・伊達邦春と），1960年
「座談会 今年の日本の近代経済学」『経済評論』臨時増刊（内田忠夫・藤野正三郎・渡部福太郎と），1960年
「座談会 日本経済と経済学」『経済往来』（大熊一郎・嘉治元郎・藤野正三郎と），1960年

- 「座談会 深まる独禁政策のジレンマ」『東洋経済』新年号（篠原三代平・熊谷尚夫・御園生等と）、1960年
- 「座談会 独禁政策はいかにあるべきか」『中央公論』（館龍一郎・小宮隆太郎と）、1962年
- 「コメント」小宮隆太郎編『戦後日本の経済成長』岩波書店（東京経済研究センター主催 第1回コンファレンス議事録）、1963年
- 「コメント」館龍一郎・波部経彦『経済成長と財政金融』岩波書店（東京経済研究センター主催 第2回コンファレンス議事録）、1965年
- 「コメント」慶應義塾経済学会編『経済学方法論の諸問題』東洋経済新報社、1967年
- 「シンポジウム・ケインズと現代経済学」館龍一郎編『ケインズと現代経済学』東京大学出版会（館龍一郎・安井琢磨・小宮隆太郎と）、1968年
- 「対談 マルクス経済学と近代経済学」『経済セミナー』No. 145（長洲一二・伊東光晴と）、1968年
- 「対談 経済学 日本とアメリカ」『三田評論』通巻第701号（マーティン・ブロンフェンブレナーと）、1971年
- 「福岡正夫君に聴く」『塾』通巻第49号（この人を囲む一時間13）、1971年
- 「対談 サミュエルソン教授の人と学問」『三田評論』通巻第708号（都留重人と）、1971年
- 「対談 ノーベル賞の経済学者たち」『三田評論』通巻第723号（内田忠夫と）、1973年
- 「対談 アダム・スミス生誕二五〇年」『三田評論』通巻第731号（高橋誠一郎と）、1973年
- 「対談 新入生父兄との対話 学問研究に平衡感覚を」『三田評論』通巻第738号（檀一雄と）、1974年
- 「鼎談 経済学の新動向」『三田評論』通巻第750号（二階堂副包・松浦保と）、1975年
- 「座談会 セミナールの役割」『慶應義塾大学報』通巻第66号（林脇トシ子・小田英郎・福島義久・安東伸介と）、1976年
- 「対談 小泉信三とマルクス批判」（気賀健三と）『慶應キャンパス』7月1日、1976年
- 「座談会 大学の適正規模——研究・教育の充実を求めて——」『慶應義塾大学報』通巻第84号、1977年
- 「対談 義塾の教育とその当面する課題」『慶應義塾大学報』通巻第86号（石川忠雄と）、1977年
- 「座談会 明日の大学図書館」『三田評論』通巻第786号（高鳥正夫・楨文彦・津田良成・松原秀一・速水融と）、1978年
- 「座談会 転機に立つ国債問題」『三田評論』通巻第794号（江頭啓輔・板倉譲治・竹中一雄・大熊一郎と）、1979年
- 「座談会 地球社会への展望——国際シンポジウムの開催によせて——」『三田評論』通巻第796号（十時殿周・浜田文雅・栗林忠男・高橋潤二郎・井関利明と）、1979年
- 「三人談話 蝶」『三田評論』通巻第803号（薩摩忠・藤岡和夫と）、1980年
- 「コメント」島野卓爾、浜田宏一編『日本の金融』岩波書店（東京経済センター主催 第7回コンファレンス議事録）、1980年
- 「対談 義塾アカデミズムの復興」『三田評論』通巻第799号（石川忠雄と）、1980年
- 「対談 経済学はどこに行くか——アメリカ経済学の現状と展望——」『社団法人中小企業研究センター年報』（岸田輝熊と）、1981年
- 「人気ゼミの内側——福岡正夫教授に聞く——」『世界学生新聞』、1982年
- 「座談会 塾生の海外旅行塾」第134号（松原秀一・栗林忠男・福井秀直・衛藤駿と）、1982年
- 「座談会 マルクス、ケインズ、シュンペーター」『三田評論』通巻第835号（小池基之・竹内靖雄・早坂忠・丸山徹と）、1983年
- 「対談 ケインズ経済学とケインズ批判の経済学」『別冊経済セミナー』（川口弘と）、1983年
- 「座談会 不均衡動学と均衡分析——価格メカニズムの有効生をめぐって——」『日本経済センター』会報第437号（岩井克人・林敏彦と）、1983年
- 「座談会 芸術と大学」『三色旗』第433号（高橋高見・由良君美・永戸多喜雄・衛藤駿・徳永隆男と）、1984年
- 「対談 レオン・ワルラスと現代経済学」『週刊東洋経済』近代経済学シリーズ No. 69（安井琢磨と）、1984年

- 「対談 (続)レオン・ワルラスと現代経済学」『週刊東洋経済』近代経済学シリーズ No. 70 (安井琢磨と), 1984年
- 「三人閑談 クラシック音楽」『三田評論』通巻第825号 (渡辺格・中野博司と), 1984年
- 「対談 蝶を追って」大蔵省広報『ファイナンス』通巻第237号 (川崎昭典・東山紀之と), 1985年
- 「シンポジウム: 数理経済学の有効性」『現代における数学と経済学の試み』日本交通政策研究会 (浜田宏一・佐和隆光・西村和雄と), 1985年
- 「対談 さらなる飛躍のために」『慶應義塾大学報』通巻第170号 (石川忠雄と), 1986年
- 「座談会 異職邂逅——蝶に魅せられて——」『FRIENDLY』Vol. 16 No. 82 (五十嵐邁・東山紀之・弘世徳太郎と), 1982年
- 「座談会 近経の父・小泉信三」『慶應キャンパス』4月20日「慶應義塾過去・現在・未来」第4回 (千種義人・丸山徹と), 1988年
- 「三人閑談 誌上名画座」『三田評論』通巻第900号 (渡辺格・村瀬敏郎と), 1989年
- 「座談会 アダム・スミス再考」『三田評論』通巻第911号 (根岸隆・飯田裕康・丸山徹と), 1990年